2020 年 5 月 19 日
株式会社富士通総研公共政策研究センター長
（兼）関高校 FRH アドバイザー　若生幸也

大学・大学院における学び

はじめに

はじめまして、2001 年度卒業の若生幸也（わかおたつや）と申します。現在は富士通総研という会社で、国や地方自治体など行政機関向けの調査研究やコンサルティング、その他社会一般に向けて情報発信を行っています。昨年度まで関高校の SGH アドバイザーを拝命しており、今年度からは FRH アドバイザーを拝命しています。弊社の略称は FRI（Fujitsu Research Institute）なので、なんとなく親近感のわく三文字です（笑）

推測ですがみなさんに仕事の話をこの場でしてもまだ距離感があるので、2014 年にみなさんの先輩にお話しした講演[1]資料を用いながら、高校・大学・大学院における学びについてお伝えしたいと思います。

１．高校生活（関高校）

高校1年次（1999年）～高校3年次（2001年）

早く大学に行きたかった

- 少なくとも**文系**であることは間違いなかった
- 国公立大学の**法学部**に行きたかった（**法学と政治学**の適性が分からず、国公立の多くは入学時に学科を決めなくてよいため）
- 当時から政治をはじめとする**社会問題には関心**があり、昼休みには友人と『**日本の論点**』で議論し合う
- 授業が終わったらほぼ毎日Iくん（現在**任天堂**勤務）と帰宅。帰宅後は、夕方の再放送ドラマ見る→夕食→パソコン→横になる→勉強する→寝る（極めて**怠惰**）

センター試験前に高熱を出し、金沢大へ出願
（関高同級生は法学部に3人）

高校時代の科目成績的に少なくとも文系であることは間違いなく、工学部などで好きなクルマについて研究するなどの道はないなと感じ、そうするとこれまでずっと関心を持っていた「法」や「政治」を学ぶ法学部がよいのではないかと考えました。なぜ私がこのような公共的課題に関心を持っ

[1] https://school.gifu-net.ed.jp/seki-hs/sgh/html/pdf/tab7/sghjoho_12.pdf

たかご関心のある方は以下リンクを参照ください[2]。

とはいえ当時の私は法学と政治学の適性がよく分からなかったため、国公立大学の法学部に入り、２年～３年次に学科選択することを希望しました。当時から政治をはじめとする社会問題には関心があり、昼休みには友人と『日本の論点』で議論し合う少し変わった高校生でした（友人は小論文対策の一環で付き合ってくれましたが）。

いま思えばかなりの無気力高校生で、ほぼ機能していないパソコン部に所属し、その部長で小中学校からの友人だったＩくんとほぼ毎日帰宅していました。現在彼は任天堂に勤務しています。少し話を脱線させると、中学生時代に彼と私は Visual Basic によるプログラミングにはまっていました。彼と私の違いは何かと言えば、彼のパソコンは非力で市販のゲームソフトが動かず、私のパソコンでは市販のゲームソフトが動きました。彼のパソコンでは市販のゲームソフトが動かないので必然的に自分で Visual Basic を用いてゲームを作らなければ楽しめない環境でした。これが後の進路を大きく分けたと思っています。

帰っても夕方の再放送ドラマを見て夕食を食べて、パソコンして横になって、その後勉強して寝るという極めて怠惰な生活を送り続け、当時なぜか会員になっていた Z 会は３年生のときに２年生の教材を解くという始末でした。

結局そんな怠惰な生活を繰り返し、全くダメ学生なのですがセンター試験前に高熱を出し金沢大学に出願し合格しました。関高校の同級生は法学部に３人いました。今振り返っても残念ながらあの高校時代に戻りたいと思うことはありません。とにかく早く大学に行きたいと思っていました。そして、いまが一番です。

高校時代の筆者近影

[2] https://twakao.wordpress.com/2012/12/29/publicmind/

２．大学生活（金沢大学法学部）

学部1年次（2002年）	学部2年次（2003年）
法学か政治学か？	**師匠との出会い**
•**答えがひとつではない**その大学の空気が気持ちよかった •法学か政治学で迷う日々 •**よい友達に恵まれ議論**しまくる •**バイトではプリンタ売りまくり** この頃なりたかったもの・・・ **国会議員政策担当秘書**	•政治学の道へ •夏に友達と**山陰地方旅行** •夏からは本格的に勉強するために**テーマを決めて5冊以上**本を読むことにした •冬のある日のこと・・・ **師匠との出会い**

このまま行っていたら、頭でっかちな理論派になっていたかも・・・

（１）大学生活前半

学部１年次。大学に入るとやはり望んでいた世界がありました。答えがひとつではなく議論する空気が大学にはあふれています。今は高校でも「総合的な学習（探究）の時間」等でこのような場はあるかもしれません。

さまざまな教養科目と並行して法学入門や政治学入門という講義を受けて、どちらがよいのだろうかと迷う日々を過ごしていました。そんな講義を受けているとよく隣になる同級生が友達になり、朝までファミレスで議論をすると親友になり、いまでも大切な財産になっています。

当時アルバイトは家電量販店でプリンタを販売するヘルパーでした。どうやったら自社製品が売れるかを徹底的に研究しジャパネットたかたの番組を見てセールストークも参考にしました（笑）北陸トップのヘルパーとして最高販売台数は 40 台・80 万円（１日）の売上でした。最後の方にはどのように売れるかのセールストーク集を作成し、全国のヘルパーに使われるまでになりました。大学に入ると企業等でのインターンシップ（職業体験）の機会もあると思いますが、アルバイトも本気になれば私は学びが多いと思っています。ここで得たマーケティングセンスは今の仕事でも生きています。

この頃なりたかった職業は国会議員政策担当秘書でした。政治にかかわる道としてはよいかもしれないと考えていました。しかし秘書が責任をかぶることも多く、そんな報道を見た私は少し違う方向性を模索した方がよいかもしれないと考えるようになりました。

学部２年次。やはりやっていて「心が躍る」のは政治学でした。夏には金沢から岐阜、そして友人をピックアップして山陰地方へ旅行に出かけました。当時高速道路民営化の議論がなされていた頃。鳥取市にある 60 キロ以上先のインターチェンジを示す道路標識を見たときに、「効率性と公平性とは何か」を

考えさせられました。

この後からは本格的に勉強して社会を解剖する目を持ちたいと思ったのか、政策分野ごとに５冊以上本を読むことにしました。このときの経験はどのような分野においても一定の相場観を持ちうるという点で効果がありました。このまま行くと頭でっかちな理論派になっていたと思うのですが、冬のある日のこと、この大学に来てよかったと本当に思える恩師（神谷浩夫先生：地理学）に出会いました。その恩師は昨年末に亡くなりましたが、私が社会に飛び立つための滑走路を用意してくださりました[3]。

学部3年次（2004年）	学部4年次（2005年）
現場へ調査に行く！	**理論と実践の融合へ**
•県議会議員の政策スタッフになって議員の質問を考えた	•**地域づくりインターンシップ**でNPO法人に行き、NPO法人の組織評価・事業評価を行う
•金沢まちづくり研究機構市民研究員になり、**プロフェッショナル市民とかかわり**を持った	•金沢を離れて、**自分でネットワークを作りたい**と東北大学公共政策大学院を受験・合格
•金沢市「学生参加のまちづくり」の受託調査を行い、**他大学の学生のすごさに触れた**	•学長研究奨励費という研究奨励金を頂く

大学で学んだことと現実を照らし合わせることの重要性を学ぶ

（２）大学生活後半

大学生活後半はほぼ神谷先生とともに作り上げたものです。

学部３年次。「政治に興味がある」と言えば知り合いの県議会議員の政策スタッフに加えてもらい議会での議員の質問を考えたりしました。また市民主体で金沢市への政策提言を行う金沢まちづくり市民研究機構市民研究員となり、大学教員やコンサルタントなどプロフェッショナル市民とかかわりを持ちました。

コンサルタントという仕事を知るのもこの頃で、「NPO と社会」という講義で三菱総研の研究員が話してくださったことで、「もしかしたら政策にかかわるには面白い仕事かもしれない」と興味を抱きました。三菱総研のウェブサイトで採用情報を見てみると、原則的に大学院修了者しか採用していませんでした。他のシンクタンクを見ればまた違ったのですが、短絡的に「大学院に行かないとダメか」と思って進学が視野に入りました。

金沢市との共同研究で「学生参加のまちづくり」というテーマで石川県内大学（金沢工業大学や金沢星稜大学）、県外先進事例（岐阜大学や高崎経済大学、横須賀市にあるまちづくり団体ヨコスカ

[3] https://note.com/twakao/n/ne3cbb182d603

ン）などにもインタビューに行きました。そのときに出会った他大学の学生さんのすごさに衝撃を受けました。ともすると「井の中の蛙」になりがちな地方大学では「他流試合」が絶対に必要です。

学部４年次。地域創造学類目玉のカリキュラムを作るための前段として、地域づくりインターンシップの試行のため、加賀市山代温泉にある山代温泉活性化 NPO 法人である「はづちを」に１ヶ月間インターンシップに行きました。ここでは組織体制と事業分野における内部評価を行いました。

神谷先生のおかげで石川県内にいらっしゃるまちづくり関係の枢要な方とは当時お知り合いになることができました。でもそれは自分の力ではない、自分の力でどこまでいけるか試してみようと大学院は別の大学（東北大学公共政策大学院）に進むことにしました。

３．大学院生活（東北大学公共政策大学院）

大学院1年次（2006年）	大学院2年次（2007年）
ネットワークを拡大	**就職活動の苦戦？**
•地域経済と地域金融の関係について研究 •宮城県美里町のまちづくり会議（市民参加による総合計画に対する提言組織）の**ファシリテーターを実践** •せんだい・みやぎNPOセンター「協働の強化書」研究会参加	•**就職活動は思いのほか苦戦** 何とかシンクタンク系コンサルに職を得る •玉石混交化するNPO法人問題を解決することを目的とした「NPO法人の評価・認証システム」について研究 •**東北大学総長賞**を頂く

東北でもネットワークを広げられたことは大きな自信に

大学院１年次。東北大学公共政策大学院では大学院１年次に公共政策ワークショップと呼ばれるグループ研究が行われます。講義やアルバイト、その他の用事があるとき以外は、昼夜問わず研究室に入り浸る生活。文字どおり「同じ釜の飯を食った」仲間でした。この仲間はそれぞれ多彩な分野で活躍し今でも大切な存在です。

とはいえ大学院内の生活だけでも自分の力でどこまでいけるかを試すことはできないため、たまたまブログにコメントをいただいた NPO 法人を訪問し、宮城県美里町のまちづくり会議のファシリテーター（議論の促進役）を実践させてもらうようにしました。

大学院２年次。大学院１年次の２月くらいにようやく就職活動に入ることができるようになりましたが、思いのほか苦戦しました（とにかく SPI と呼ばれる適性検査が苦手でした）。結果的には弊社に内定をもらい、ほっとしました。当時私が大学院３期生でしたが、シンクタンクの進路実績が

なかったこともあり、後進に道を作れてよかったと思っています[4]。この間の大学院の成果を認めていただいて結果的に東北大学総長賞をいただきました。

３．大学・大学院における学びからみなさんに伝えたいこと

（１）何をやりたいかが分からなければ、（残念ながら）勉強すべき

私は大学・大学院で高校時代とは見違えるほど勉強しました。勉強は「可能性を広げる」ことに他なりません。大学時代に何をやりたいか分からないのに勉強するのは酷ですが、可能性を閉ざしたくないのであれば残念ながら勉強するしかありません。

もちろん自分の好きなことを起点に、「自分のやりたいことは何だろう」と考えることも重要です。

（２）何かやりたいことがあれば、卒業生の進路は把握すべき

何かやりたいことがあれば、卒業生の進路で多く輩出している大学を選んだ方が可能性は高まります。私のようにシンクタンクに行きたいのにシンクタンクの進路実績がない大学院を選ぶのはあまり得策ではありません。よほどの自信があれば別ですが。

（３）大学教員は一生の恩師になりうるため、ドアを叩くべし

私は神谷先生以外にも多くの大学の先生にお世話になりました。大学の先生はなかなかとっつきにくい存在かもしれませんが、研究室のドアを叩けば必ずみなさんの世界を広げてくれるはずです。私の中には小さな神谷先生が宿っています。そのくらい大きな存在です。

（４）大学に入ったら、そのときにしかできないことをやろう

学生は最も自由な立場です。誰にでも話を聞きに行ける機会はこの時期を過ぎると少なくなります。誰もが「看板」を背負うとどうしても聞けない場所が出てきてしまうのです。自分のやりたいと思うことに忠実になって「経験値」を高めてください。

ひとつのテーマに全力投球するのも大学時代が最適です。学業・地域活動・アルバイト・何でもかまいません。全力投球した経験は必ずその後に役立ちます。自分に「負荷」をかけてください。

（５）同期の仲間は大切に！

大学・大学院の同期はいまでも情報交換する大切な仲間です。掛け値なしに何があっても助け合おうと思うのはこの仲間しかいません。そんな最高の仲間を作ってください。

（６）就活でスキルより重要なのは、考え抜ける知的体力や人間的魅力、そして想い

大学・大学院の後には多くのみなさんは就職活動が控えています。もちろんスキルが求められる部分もあるのですが、むしろ考え抜ける知的体力や人間的な魅力、そしてどんな想いを持っているのかを社会人は見ています。

現状を把握し、問題点を見つけ出し、その要因を特定でき、解決案を出せるなら、少なくとも我々の業界は大歓迎です！みなさんの中から、お客様がいて対価が発生する「総合的な学習（探究）の時

[4] https://note.com/twakao/n/n0a3a1fc53011

間」を一緒に取り組める仲間が関高生から生まれることを期待しています。

—社会を一歩でも前に進める仲間として。若生幸也

2019 年 8 月北陸中日懇話会（金沢市）での筆者講演の様子